

# 富士通コンポーネント株式会社：カスタマー・セントリック・デザインの推進

顧客中心のアプローチをとるビジネスパートナーとして、富士通コンポーネントはIoT、ワイヤレステクノロジー、電気自動車など、さまざまなハイテク分野をサポートする最先端の技術を提供している。



「頻繁に対話することで、お客様の声を設計やエンジニアリングのプロセスに反映させた商品開発を実現しています」

富士通コンポーネント株式会社 代表取締役社長 木下 雅博

富士通コンポーネントは、100年以上にわたる設計・開発経験を持つ技術主導型の企業である。現在では、リレー、無線モジュールやIoTソリューション、サーマルプリンター、タッチパネルなどのサポートで世界的に名をはせ、エレクトロニクスや自動車業界の顧客にとって欠かせないパートナーとなっている。

同社の品質部門は、国内にあるR&Dセンターで最先端技術の進歩を追求する一方で、社会と持続可能性に貢献し、環境への影響を軽減するために、最高水準のアウトプットを保証している。社長の木下氏が語るように、顧客のニーズに対する深い理解に裏打ちされた品質へのこだわりこそが、競合他社から一線を画す存在となり続けているのだ。

「コストに関しては、中国、韓国、台湾のメーカーは我々よりもはるかに安価ですが、品質的には、日本企業が世界最高のプロバイダーといっても過言ではありません。それはなぜか？まず、お客様のご要望に応じた商品開発が可能であるところです。対話を重ねることで、お客様の声を設計・デザインに反映させることができますので、ある意味、当社のエンジニアリング力は競争力の源



メッシュネットワーク製品

泉のひとつと言えます。2つ目の理由は、どの製品も小型化が進んでいるため、非常に小さな製品を大量生産しなければならないということです」

「コストと品質のバランスが重要になりますが、日本企業にとっては品質が最優先で、次にコストを見ます。競争力を高めるために、より高品質の製品を製造しているわけです。お客様のご要望に応じた製品を提供することが可能であり、またアフターセールスも強みとなっています」

同社が信号リレーなどのニッチ部品を供給している半導体業界で



EV/PHV用リレー

は、当然のことながら小型化は大きな要求となっている。ここで協業が重要なカギを握っているのだ。同社は半導体や関連部品の小型化が進む中で、最適性能の製品を提供することに努めているという。「設計力ですでにアドバンテージがありましたが、それに加えて、最近は材料メーカーと共同で信号リレーの小型化も進めています」と木下氏は語っている。「小型化においては、素材メーカーとのコラボレーションで生まれた素材を使い、軽量化を実現しました。また、お客様によっては、ハイスpekな小型チップセットを必要としている場合もあり、コアチ

ップをより高機能なものに変更し、同時に製品全体のサイズを小さくすることもあります」

言うまでもないが、品質と性能に関しては、部品サプライヤーからトヨタや日産などの大手自動車メーカーに至るまで、自動車業界のすべてのプレーヤーがトップレベルの製品を必要としている。富士通コンポーネントがこれらの大手自動車メーカーに提供する製品の中には、2019年に開発したFTR-K5シリーズのリレーが代表として挙げられる。FTR-K5は、EV（電気自動車）およびPHV（プラグインハイブリッド車）車載充電器用の世界初の6.6kW充電に対応した、大容量で信頼性の高い基板実装型リレーであり、メーカーはEVとPHVの航続距離を延ばすことができる。

「耐振動性、動作温度、絶縁クラスに関する厳しい車載規格、IEC61810-1 277V強化絶縁規格に適合しています。リレーの大きさは、競争の場でもありますが、その他にも低消費電力や高温への耐性も考慮しなければなりません。製品は、車載充電器だけではなく、自宅で使用できる充電ステーションにも使用されることが期待されます」と木下氏は言う。

CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電気自動車）の登場により、自動車セクターは大きな変化を遂げており、自動車に搭載される電子部品のコストシェアは、現在の16%から2025年までに約35%に増加すると予測されている。富士通コンポーネントにとっても、CASEのさまざまな機能を支える製品が

ますます増えていくことになるに違いない。実際木下氏は、同社にとって「スイートスポット」としての役割を果たす領域だと言う。

「当社にはFTR-K5とFTR-E1シリーズがあり、これらはEVリレーと電力制御に適しています。CASEについては、EV市場開放の入り口となる可能性があります。当社の部品は緊急システムにも関連しており、コネクテッドカーでは、事故が起きると自動的に緊急センターに通報されるわけですが、この用途のためにFTR-B3およびFTR-B4リレーを既に提供しています。接続に使用されるのは車内の信号リレーです」

日本企業の製品は、自動車だけでなく、FA（ファクトリーオートメーション）機器、モバイル端末、ヘルスケアなど、さまざまな分野に応用されているが、木下氏はIoTコネクティビティソリューションの向上に取り組むフィンランドのWirepas社との協業から生まれたメッシュネットワーク製品に注目しているという。「当社のメッシュネットワーク機器は、大規模な分散型ネットワークを構築し、自律的なネットワークリルート能力を備えています。2020年に最初の製品を発売して以来、ラインナップを拡大してきました。大規模な病院や工場、オフィス、学校などでのアセット・トラッキングや環境センサーのデータ収集に最適な製品です」

2019年に親会社の富士通から独立するという動きを受けて、木下氏は今後Wirepas社と築いたようなパートナーシップをさらに拡大させることを目指している。「私たちはあらゆる場所でのパートナーシップに非常にオープンです。より高度な製品を開発するためには、大学やスタートアップ、あらゆる大手企業と積極的にコラボレーションする必要があるので、第三者組織と手を組むことについては非常に前向きな姿勢を取っています」



FUJITSU COMPONENT LIMITED

[www.fcl.fujitsu.com/en](http://www.fcl.fujitsu.com/en)